

棺一つ

三途の川を浮き沈み

アラジンの魔法のランプにすり過ぎ

ミイラ取り灼けた砂漠の蜃気楼

十字軍然に非じと旗を立て

神々の庭の蠍サソリに手を咬まれ

いがみあう神の手斧を血が洗う

おぞましき剣舞猛るや赤い服

サソリ撃つ無人機砂漠旋回し

平和主義ありざるところ首転げ

不条理を砂に書き風が消し

果てしなき邪執に燃えて影のひる

悪代官密を舐めるや姦計

秘密法聴耳頭巾の耳が立ち

目に視えぬ極秘の紙を透かしあり

ポケットにご機嫌如何を口竹籠り

兵の身捨つる程の国ありや

いやさかの夢の地獄に筆汚し

血統種ヤマト猿かと威丈高

脱毛の猿の惑星踏みはずし

清盛の言わず語りの鎧よろい見せ

有識者この指止まる筋のよさ

水鏡写すお岩か国の顔

毛の抜けた女狐どもの皮が剥げ

団扇もて矢風煽りし醜しこめ女おり

トリツクルトリツクルダウン君とボク

異次元の呪文唱えて錢を播き

黒田節酒は呑め呑め一気呑め

棺桶を背にひた走る黒子ムジナかな

割鏡蛇タカのかつごとき磨が棲み

敗戦の落し子祖父の牙を剥き

へば將軍わが尻馬に鞭ひとつ

日の丸とオムツ取れない終齡虫

レイシスト嗤して歩むへんな虫

老醜の破れ障子を風くぐり

錆のきたジャックナイフか砂の鞘

風無くば哀れヨツトの帆は凋しぼむ

ヤマトンチュ三下リ半に肝を抜き

場違ひの不沈空母よ然らば去れ





軍艦 いんかん  
いんかん

ミシンゾーとその仲間たち

裸虫一糸まとわぬ跣りだし

へのもへじ国防色に染め上がる

モノ問わば稚児笑える絵解きして

調子者かの独裁者と丈くらべ

継げる矢に曲がる手癖がびりつき

糸文の骨肉しゃぶる紙魚もおり

ろくろ首海のかなたで絡みつぎ

血の同盟生き血を吸えと心得る

得々と包みし国生を献上し

星条旗ついで見掛けぬ星一つ

あゝ無常寄らば大樹の蔭しほみ

翩翻<sup>へんぽん</sup>と弔旗はためく国づくり

すべからくわれ憲法の上をゆき

答弁は二人羽織の手が喋り

戦争法じゃむくくを輪唱し

おとぼけか武器を薬の瓶に詰め

奸計<sup>あるだくみ</sup>神の棚にて隠し置き

ひからびた祖父の遺伝子武器をとり

我が軍の生命保険国が掛け

独善と狂気の沙汰で臍<sup>ほそ</sup>を噬<sup>か</sup>み

幽霊に腰を抜かれて脚を見る

鉤十字ニタリ隠した中折帽

ネオナチス三人官女情交わし

美の祭典オマル抱えて走り出す

いかさま師粗悪品をば咄呵売

閻魔帳アへの罪状先に載せ

敗戦忌国の亡者の皮剥ぐや

70年つかえし小骨モノを言い

恥ひとつ虚実からめて言挙げし

NHK走狗となりて絵解きする

オーガスト愚かな水を絞る月

はたかむし毒の汐もて身をすくぎ

だまし絵に原をありて神隠し

8月の神に謀反あるでなし

迎元火に青<sup>あお</sup>いなきて二等兵

サレコーべ鬼哭啾啾風むせび

送り火にはぐれゲートルとごう巻き

浮きし世の蠅地獄に花がつき

八月の狂詩曲あり夏の虫

※蠅地獄 食虫植物、ハエトリゲサの別称。

終曲に神の国をば称えあり

シンバードと狂言廻す仲間たち





わたしは総理大臣(ですもの)

76

銜<sup>てい</sup>もなく吐いた言葉。酔狂<sup>すいけう</sup>と言つてもお粗末。  
ましてや戦後70年の言挙<sup>ことあげ</sup>など言うに及ばず。  
かの同盟国の旗の下での雀躍<sup>さくえつ</sup>。虚言<sup>うそ</sup>尽きず。自画<sup>じくわ</sup>  
自賛<sup>じさん</sup>とあいなれば、継ぐ言葉もない。七者打つべし。  
履歴<sup>りふれき</sup>は削<sup>く</sup>かれてしまった。お隣りの国ではハエも虎  
も叩くとある。ゝねんねのお里の子守唄<sup>こもりうた</sup>。されは  
美<sup>うつく</sup>しのヤマトの国に棲<sup>す</sup>む(揺籃<sup>ゆらん</sup>ありや)尊<sup>たうと</sup>ぶ祖父  
の股座<sup>こざ</sup>で切なき夢<sup>ゆめ</sup>を見るもよし。(ぐ)